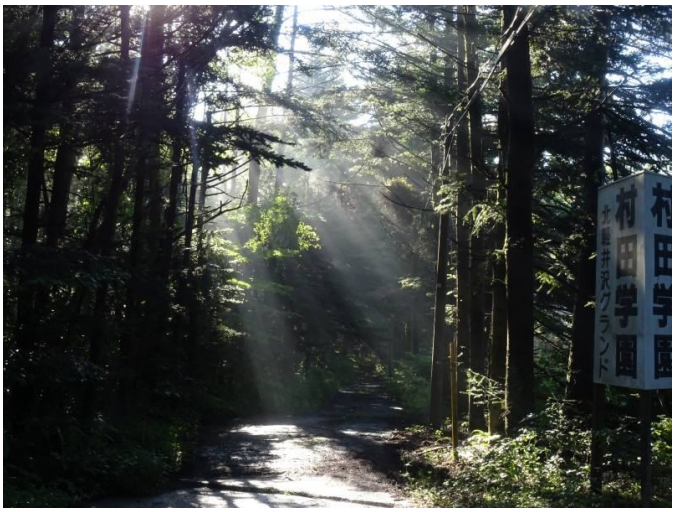
「日々の理科」（第 1877 号）　2019,-8,29

「天使のはしご（２）」

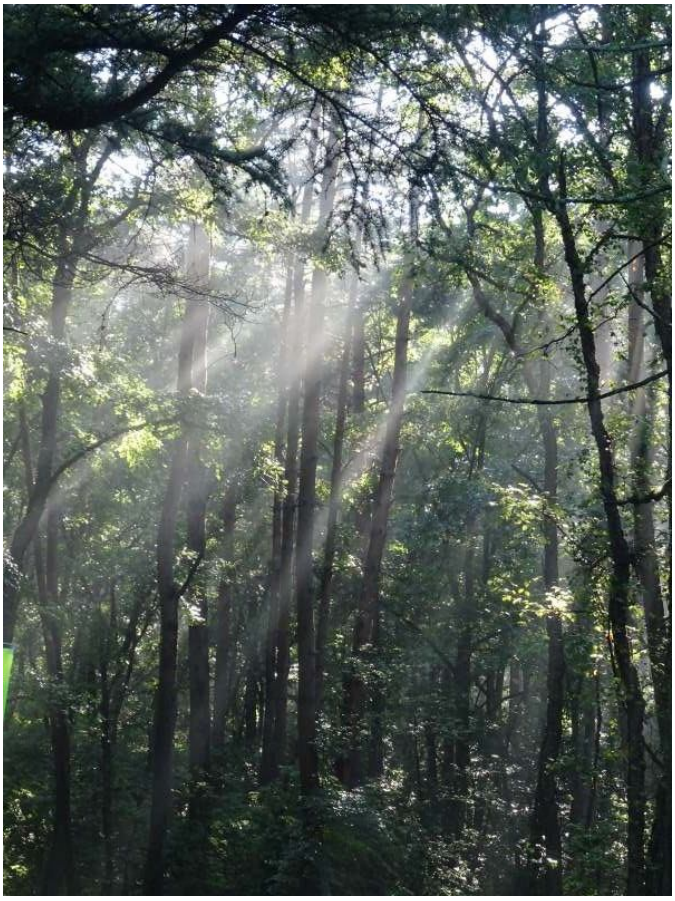
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

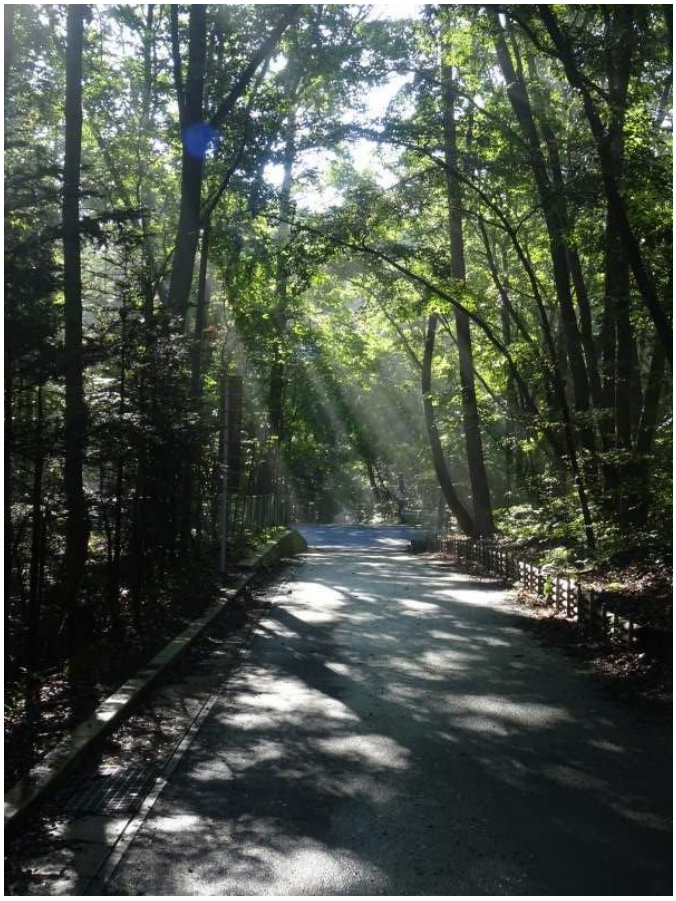
田中　千尋　Chihiro Tanaka



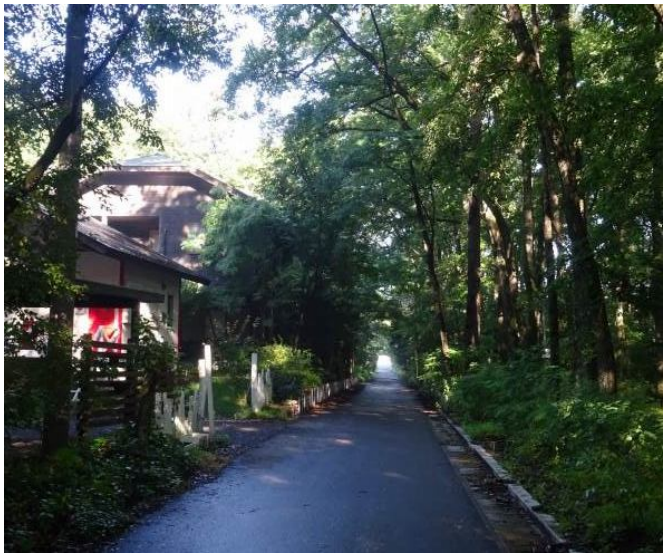
今日は、さまざまな「天使のはしご」の写真を紹介しよう。上写真は、かなり太い光芒が出現したもの。



こちらは、森の細い木々の間から太陽光が差し込み、森の木々の手前にはっきりと表れた「天使のはしご」私は一筋の光を手で触ってみたが、もちろん手のひらに太陽光が当たるだけで、何も感じなかった。



これも道の光芒と、その結果できた「木もれ日」



ところが、同じ場所で振り返った風景には、光芒は一本も写っていない。写真に写らないだけでなく、肉眼でも見えない。私は光芒（天使のはしご）というものは、太陽を背にした「順光」のほうが観察しやすいものだと思い込んでいた。しかし、実際には太陽のほうを向いた「逆光」の状態でないと観察できないことがわかった。そういえば、大規模な光芒が出現するのも、夕方の西の空が多い。これも自分（観測者）と太陽の関係は「逆光」である。なぜそのようになるのか、仕組みを知りたいと思った